

はあとふる

Vol

27

AUTUMN

Heartful 2007.10

地域の皆さまに、心(Heart)と技術(Hands)でヘルスケアサービスを提供するためのコミュニケーション誌



■特集

天皇皇后両陛下 行幸啓

インタビュー

ケアワーカーの仕事

『天皇陛下のお言葉を励みに
今後も、楽しいリハビリを提供します』

世界陸上2007を応援
病院内全面禁煙を実施



【行幸啓】天皇皇后両陛下がお出かけになることを表します

島田病院、八尾はあとふる病院は
『病院機能評価認定病院』です。

はあとふるグループ

医療法人(財団) 永広会
社会福祉法人 はあとふる

天皇、皇后両陛下の 心あたたまるお言葉に 職員一同、思いもあらたに。

大阪で開催された「世界陸上大阪2007」の開会式にご参列の天皇皇后両陛下が、開会式翌日の8月26日曜日、高齢者施設のご視察として、私たちの介護老人保健施設「悠々亭」をご訪問になりました。開設から10年を経過した「悠々亭」は、天皇皇后両陛下の行幸啓を経て、さらに新しく、生まれ変わりたいと思っています。



大勢の方々が30度を越える暑さの中、早くから沿道で車列を待たれました。

理事長の背中がいつになく緊張しています。



手を振って歓迎にこたえられる天皇、皇后両陛下と同行された太田房江知事。そして、お迎えに出る島田永和理事長。



通所リハビリテーションのグループ体操の説明を聞かれる両陛下。



ご利用者一人ひとりに丁寧にお言葉をかけてまわれる天皇陛下。



やさしいお言葉をかけてくださる皇后陛下を間近に、
少し緊張気みのご利用者のみなさん。

両陛下の国民の幸せと
福祉の充実を思うお心に感激。
私たちも地域のヘルスケアに
これからも関与して参りたいと思います。

施設長(理事長)島田永和

今回、私の心の中に、天皇陛下という存在について強い思いがあるのだと気がきました。それは、ほとんどの日本人に共通のものかもしれません。

周囲からの情報も取り寄せて、かなり緊張してお待ちしていたのですが、当日、お顔を見て、ご挨拶した瞬間から、何故かスッと力が抜け、安心した気持ちで、ご先導を務めることができました。天皇皇后両陛下ともに、私どもの話に耳を傾けていただき、また、施設のご利用者、そして、スタッフにも暖かく、ご親切にお声をかけていただきました。

高貴な方といえば、これまでの漠然としたイメージがあって、近寄りがたく、庶民とはまったく別の感覚を持っていたらっしゃると思っていました。しかし、初めて真近でお言葉を交わす機会を得て、そのイメージはずいぶん変わりました。

まず、華美な印象がないことに驚きました。そして、お二人ともがお見せになるさりげなく、優しいお心遣い、これは「本物」中の「本物」と感動し、心から敬服いたしました。最後に、私たちに、「これからもこうした介護や福祉の分野でよい内容の仕事を続けてください」と励ましのお言葉をいただきました。両陛下は、国民が幸せになることを常に考えておられるのだと感動しました。心から自然に「ご尊敬する」と思える方々でした。

今回、お迎えするにあたり、天皇皇后両陛下の日程を知ることができたのですが、本当に激務をこなしておられます。分刻みのスケジュールを、衆人環視のもと、カメラやフラッシュに追われながらこなしていられます。重圧の中でのお仕事だと思いますがこれからもお身体を大切にしていきたいと願っております。本当に、よい経験をさせていただいたと感謝しています。



脳卒中などで障がいが残られた方々へトレーナーが指導する「のびのび体操」。

悠々亭では、実際の活動をご視察。 職員へのねぎらいのお言葉を、誇りに変えて…。

悠々亭の通所リハビリテーションと入所フロアで、実際にご利用者のグループ体操やリハビリテーションをご覧いただきました。その後、ご利用者お一人おひとりに丁寧にお言葉をかけられ、励ましてくださいました。また、職員にもさまざまな問いかけやねぎらいのお言葉をいただきました。高齢のご利用者はもちろんのこと、私たち職員にとっても、思いもかけない幸せな時間となりました。

当日通所リハビリテーションやフロアで勤務していた職員へ、お声をかけられました。

さまざまなご質問の後に「大変でしょうが、お身体を大切にされて、皆さまのために頑張ってくださいね」とお言葉を添えてくださいました。

また、「高齢者の方々が、『リハビリをして元気になってきています』と話してくださいました。よく見ていただいていると感謝します。ご苦勞がとおありでしょうが、大切なお仕事です。どうぞこれからも続けてください」と励ましていただきました。

私たちの仕事は、日本の高齢者を幸せにする仕事だと再認識し、誇りをもって励むよう応援していただいたと感じました。



悠々亭通所リハビリテーションで99歳と最高齢のご利用者にも「11月の100歳のお誕生日を、お元気にお迎えください」とお声をかけられました。



職員にもご熱心なご質問をいただきました

グループ体操を担当していたケアワーカー（介護福祉士）

皇后陛下：働かれてどのくらいですか？

職員：4年目です。まだまだヒヨッコです。

皇后陛下：皆さんこの体操をされていかがですか？

職員：お家での転倒も減りましたが、なにより楽しそうに体を動かしておられます。

下肢の訓練を担当していた理学療法士

天皇陛下：ご苦労はありますか？

職員：ご利用者の活動能力の維持や向上をして、在宅生活を継続していただけるよう、お手伝いできることに、やりがいを感じております。

発語の訓練を担当していた言語聴覚士

天皇陛下：どうですか、最近の言葉のリハビリは進んでいますか？

職員：はい。できるだけ様々な方法を取り入れ、工夫しています。

タオル体操を担当したケアワーカー（介護福祉士）

皇后陛下：このタオル体操は、みなさんで作られたのですか？

職員：はい。

皇后陛下：片方の手が不自由な方は、車いすにタオルをくっったりされて、工夫されていますね。

職員：ありがとうございます。

皇后陛下：この体操は、生活の中で役立っていますか？

職員：はい、そうです。

たくさんお伝えしたいことがあったのに、緊張のあまり「はい、そうです。ありがとうございます」とお答えできただけでした。

両陛下をお迎えした各職員も、それぞれに「感動」。

●お見送りの際には玄関前にさしかかると、車の窓を開けて、天皇陛下が皇后陛下の横の座席から、身を乗り出して、お二人と一緒に、一人ひとりと目があうようにゆっくりと、手を振ってくださいました。身を乗り出して、応えようとされるお姿に感動しました。

●お茶をお出しするために、ご休息の部屋に入ると、立っただけで待っておられたので、びっくりしました。お帰りになる時にも、お茶をお出しした職員一人ひとりの顔を見て「ありがとうございます」と言ってくださって感動しました。

●皇后陛下はとても美しくって感動しました。

●臨時駐車場でとても暑かったけど、最後にお会いできて、暑さも吹き飛びました。なんだかすごいオーラで、涙が出るくらい感動しました。

最後に、島田病院の玄関前で悠々亭の入所者や入院患者さまと一緒に、職員もお送りすることができました。

両陛下に当施設の概要とこれからの福祉に取り組む思いをご説明しました。

天皇皇后両陛下をお迎えすることが決まり、その準備の過程で、行幸啓という大きな出来事は、グループにとって一つの区切りのように思いました。改めて、これまでの歩みを振り返り、これからの課題を考え、地域に求められる良質のケアを提供し続けていかねばと誓いを新たにしています。その思いを施設概要として施設長（理事長）の島田永和からご説明しました。

結核診療所「島田病院」開設から スポーツ選手の治療への取り組み

今から約60年前、医療法人永広会が誕生し、大阪市内の鶴橋で有床診療所を運営していた父島田永和（1910-2004）は羽曳野市野々に結核療養所「島田病院」を開設します。約30年が経過し、私が、今の場所に移転していた島田病院（結核病床180床・一般病床40床）の院長となり、同時に、医療法人永広会の理事長を創設者である父から継承しました。医師としてまだ完成していない年代であるにも関わらず、組織の責任者としての重責をも担うことになりました。しかし、当面の目標は、整形外科医として一人前になることであり、優れた整形外科診療を地域に提供することでした。その中で、師匠である故市川宣恭先生の薫陶を受け、さらなる専門領域としてスポーツ整形外科に取り組んでいました。

スポーツ選手の外傷・障害の治療では、通常の診療とは異なるゴールが要求されました。彼らの診療では、日常生活ができるレベルの回復では決して満足いただけません。元通りの機能を獲得し、試合に出場するなど現場に復帰することが課題となります。さらに、一旦復帰したら、二度と再発せず、競技力も向上するようサポートすることが求められます。これらの要求を満たすには、治療の方法、その後のリハビリテーションやトレーニングなど、あらゆる条件を整える必要があります。ひとり一人の選手への対処を積み重ねていくうちに、少しずつ、具体的な成果も生まれます。徐々にこうした診療を求めて選手が来院するようになります。そんな時、こうした考え方はスポーツ選手だけに必要なものではないことに気付いたのです。

培ってきたノウハウをいかし 高齢者ケアへの参画

その頃、「老人病院」での高齢者への診療の多くは悲惨なものでした。入院した高齢者は、一日中ベッドで寝かされ、点滴を受け、たくさんの薬を飲み、時間を決めておむつ交換を受けていました。こうしたケアを行う施設では、会話は弾みませんし、笑顔を見ることも稀となります。大きな褥瘡を作り、生気のない表情で天井を見つめるというのが典型的な姿です。

私は、こうした高齢者の方々こそ、リハビリテーションの考え方が必要だと思いました。心を込めてケアを届け、元気になって、残り少なくなったとしても、また、それだからこそ、その人らしい人生を過ごして欲しいと願うようになりました。そして、老化や疾患のせいで、思うように身体を使えなくても、その方らしく生活することを支援しなければならないと考えました。それは、スポーツ活動ができないようなケガや障害への対応のゴールを元通りの活躍に置いて、一緒に努力していくことと同じなのです。スポーツ整形外科で培ったノウハウを高齢者の方々に生かそうと考えたのです。ある意味では、それは、スポーツ選手への対応よりずっと込み入っており、複雑で多くの職種の協力のいるテーマでした。しかし、専門職種が集まり、技術や経験を通して築き上げた知恵を活用し、少しずつこの分野でも実績を積み重ねつつあります。

さまざまな「介護」のありかたを追究 悠々亭のさらなる挑戦

もともと、老人保健施設は、医学的な治療が終わった後で、機能障害が残り、ご自宅に帰るにはもう少しご自身の機能を向上したり、受け入れの整備をしたりする必要のある方をお預かりし、こうした目的にかなうケアを提供する施設です。決して、亡くなるまで過ごすといった住む場所ではない設定となっています。その条件に叶う人のみを受け入れることは実際上難しいですし、入所者の方にはそれぞれ異なる事情や環境があるため、「悠々亭」ではフロアごとにテーマを設け、入居者の状況に沿ったケアを提供するよう工夫をしています。

老人保健法が生まれ、介護保険につながり、その見直しがなされ、少子高齢社会に対応するよう制度は変わってきました。これから戦後のベビーブーマーたち（団塊の世代）が、高齢者の仲間入りを始めます。財政不安がある中、こうした変化に対応する制度設計は容易ではありません。そして、ケア提供者の私たちとしては、顧客が変わることに備える必要があるでしょう。戦後の教育を受けた高齢者です。ハッキリとしたご自身のご希望を、明確に告げる世代であろうと予測されます。情報をきちんと伝え、選択肢を提示し、ご自身で選んでいただくようなサービス提供のあり方をこれまで以上に追求しなければならないと考えています。

『天皇陛下のお言葉を励みに 今後も、楽しいリハビリを提供します』

老人保健施設 悠々亭 ケアサービス部 通所リハビリテーション 竹重隆一さん



今回は、通所リハビリテーションに勤務するケアワーカー 竹重隆一（たけしげりゅういち）さんからお話を聞きました。行幸啓は、はあとふるグループにとっても1度あるかどうかの歴史に残る大イベントでした。その際には、指導員としてグループ体操を行い、天皇陛下に直接声をかけていただいたそうで、興奮さめやらぬ様子です。

『行幸啓の時は緊張しました。グループ体操が終わった時に、天皇陛下から「ご苦労様です」って声をかけていただいて、感激しました！優しい笑顔が印象的で、今でもその時の様子を鮮明に覚えていますね。その日ばかりは、利用者さんも緊張しっぱなしで、いつもよりトイレ介助の回数が増えて大忙しでした。でもこんな貴重な経験を持つことができて、僕も利用者さんも一生忘れられない思い出になったと思います。

まず、通所リハビリテーションについて簡単に説明します。介護保険対象者が利用できるサービスで、朝に送迎車で施設に通って、体調チェックや入浴、リハビリテーション、グループ体操、レクリエーションなどを行います。昼食や「おやつ」もあって、夕方には送迎車に乗り、家へ帰るのが1日の流れです。医療保険のリハビリテーションを終了された高齢者の方に継続したリハビリテーションを提供しています。

僕は、もともと大学では福祉科を専攻していたわけではなく、文学部を卒業しました。大学に在学中は、青少年ボランティアの活動をしており、子供会の人々とキャンプしたりして、たくさんの子供達と接する事ができました。もともと人と接する事が大好きだったので、この仕事を選びました。

僕の普段の仕事は、送迎車の運転から、利用者さんの介護、レクリエーションや体操などです。利用者さんに関する事は、何でもできないとこの仕事はつとまりませんね。通所リハビリテーションでは、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士による個別訓練があります。療法士とトレーナーで相談して作成した片麻痺の方への「のびのび体操」もトレーナーの指導で行っています。そして、僕たちケアワーカー（介護福祉士）が担当するグループ体操は楽しんで体を動かす事を第一に取り組んでいます。内容は、基本的には決まっているのですが、その時の参加メンバーの顔ぶれや、表情をみながら、新聞の話題なども交えて臨機応変にプログラムを組みます。やっぱり楽しくないと続きませんからね。

今後も楽しいリハビリテーションを提供し続けていきたいと思っていますので、ぜひ一度通所リハビリテーションに見学に来て下さい。』

（介護老人保健施設 悠々亭の詳細は、ホームページで閲覧できます。
http://www.heartful-health.or.jp/roukenyuuyuutei/rouken_top.htm）

世界陸上2007では、 「なにわ陸上応援団」として大きな声援を送りました。

IAAF世界陸上2007大阪が平成19年8月25日から9月2日まで、長居陸上競技場で行われました。「より早く！より速く！より高く！」をめざすアスリートに応援し、大阪と大阪人の心意気を国内外にアピールするために「なにわ陸上応援団」が結成されました。

はあとふるグループも応援団に加わり、島田永和理事長を始め職員や家族約40名が連日応援に出かけました。開会式当日に観戦した職員は「開会式のセレ

モニーを生で見ることができてすばしかったです。競技場のあちこちで、いろんな競技が並行して行われていました。ハンマー投げの室伏さんが投げる瞬間は、「ワー」という歓声がスタンドに響き合って、会場に一体感が生まれ感動しました」と語ってくれました。

世界陸上の応援にかけつけた「くだおれ太郎くん」と脈をとる主治医の島田医師。連日の暑さの中での応援で、熱中症にならないよう水分補給をするようお勧めしました。



はあと to ハート

インフォメーション

使 命

私たちは、
良質のヘルスケアサービスを
効率よく 地域の方々に
提供し続けます

理 念

私たちは、その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを
心(Heart)と技術(Hands)で
支援します

基 本 方 針 4つの追求

- 1.「確かな技術」を追求します
- 2.「心に届く」を追求します
- 3.「安全」を追求します
- 4.「信頼でつながるチーム」を追求します

はあとふるグループでは、病院敷地内全面禁煙を実施しています。

タバコが及ぼす害については、誰もが知っていると思います。例えば肺癌や喉頭癌などの大変恐ろしい病気を引き起こす可能性があります。また、骨折の治癒を遅らせたり、骨粗鬆症の危険因子であることがわかっています。さらに治療薬の作用を弱めてしまったり、手術の後に肺炎などの合併症を生じやすくするなどの悪い影響もあります。その上「受動喫煙」といって、周りの人たちのタバコの煙を吸い込む事で、自分ではタバコを吸わない人にまで様々な害を及ぼします。

病院は誰でもが利用する公共の施設ですから、どなたでも気持ちよくご利用していただけるようにしてはなりません。健康増進法第25条には、病院や学校等の公共施設は受動喫煙を防止する必要な措置を講ずるよう努めなければならないとされています。

その為、はあとふるグループでは下記の通り病院敷地内全面禁煙を実施しています。皆様のご理解とご協力の程、宜しくお願いします。

●島田病院 9月1日から

●八尾はあとふる病院 10月1日から

アスレティックトレーナーの「マスター」と呼ばれる
白木 仁先生を講師にお迎えして

第14回スポーツ選手・指導者交流会を開催

白木先生は長野オリンピックでスピードスケートの日本代表ヘッドトレーナーとして、シドニー・アテネオリンピックではシンクロの日本代表トレーナーとして数々のメダル獲得にたずさわってきた名トレーナーです。現在もジャンルを超えて多数のトップアスリートをサポートしています。

日 程 平成20年2月23日(土)

場 所 未定

詳細については次号の『はあとふる』でご案内します。ご期待ください!

特 別
講 師

筑波大学人間総合科学科准教授

白木 仁 先生

公式ホームページ
<http://www.shirakihitoshi.com/>

Check!

QRコードで簡単アクセス

島田病院の情報は携帯電話から簡単にアクセスできます。



はあとふるグループ

●医療法人(財団) 永広会

島田病院 ☎072-953-1001
Eudynamics はびきのヴィゴラス ☎072-953-1007
介護老人保健施設 悠々亭 ☎072-953-1002
在宅介護支援センター 悠々亭 ☎072-953-1003
介護サービスセンター ゆうゆう亭 ☎072-953-5514
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山100-1

ヘルパーステーション 悠々亭 ☎072-953-1062
訪問看護ステーション ハートパークはびきの ☎072-953-1004
〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7

八尾はあとふる病院 ☎072-999-0725
〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1
介護サービスセンター はあとふる ☎072-999-8126
〒583-0815 大阪府八尾市宮町2-10-22

●社会福祉法人 はあとふる

高齢者生活福祉センター ゆうゆうハウス ☎072-931-1616
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山96-10